

● 平成23年 第40回 大谷竹次郎賞授賞式 ●

平成23年第40回大谷竹次郎賞授賞式が、平成24年1月27日に松竹本社18階会議室で行われました。今回は本賞の該当作はなく、奨励賞にG2作・演出『東雲烏恋真似琴(あけがらすこいのまねごと)』(平成23年8月新橋演舞場上演)と、国立劇場文芸課脚本『開幕驚奇復讐譚(かいまくきょうきあだうちものがたり)』(平成23年10月国立劇場上演)が選ばれました。

選考委員の河竹登志夫氏より「G2さんは初めて歌舞伎作品を手掛けられましたが、歌舞伎を書こうという強い意識が感じられる、新鮮味あふれる意欲作に仕上がりました。この作品の再演が望まれるとともに、今後さらにすぐれた歌舞伎作品を生み出していきたいという強い期待をこめ、奨励賞といたします。国立劇場文芸課さんは、これまでも菊五郎さんと組んで復活狂言を上演してこられ、今回も盛りだくさんの娯楽大作となっていました。この作品の再演による洗練と、これまで以上の新作を期待して奨励賞といたします。」と、選考過程の報告があり、大谷信義会長より賞状と賞金が授与されました。

G2氏は「この授賞式の中で、大先輩方から暖かいお言葉をいただき、本当に嬉しいです。奨励賞を頂いたというのがまた嬉しい。『頑張れ!』と言ってもらったわけで、これからも頑張っていけますよね! この作品を作るのに当たっては松竹の製作の皆様や俳優さんに色々教えていただきました。これからも頑張ります」と、喜びの言葉を述べられました。

国立劇場文芸課の大和田文雄氏は「国立劇場文芸課は大和田、渡辺、岡野の3人がおりますが、この作品は渡辺と私が担当いたしました。今まで上演してきた古典歌舞伎の復活の際も、その作品の骨格から見直して再構成することから始まりますが、今回の馬琴の読本を歌舞伎台本にしていくのも同様でした。菊五郎さんに監修して頂き、多くの方のご協力によりこの作品が出来ました。これからも、河竹黙阿弥が言った“三親切”つまり、お客様に親切、役者に親切、座元に親切、国立劇場は半分座元のようなものですから、自分に親切にする必要はないので“二親切”で良い作品を作っていきたいと思っております。」とご挨拶されました。



G2氏



大和田文雄氏



≫≫ 新着資料案内 新しく受入れた資料をご案内いたします

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『シネマ歌舞伎 天守物語 海神別荘 高野聖』	○		○		

■ 映画プログラム ■

- | | |
|----------------------------|---|
| 『METライブビューイング2011-2012』 | 『荒川アンダーザブリッジ THE MOVIE』 |
| 『劇場版テンペスト3D』 | 『ジャックとジル』 |
| 『灼熱の魂』 | 『J・エドガー』 |
| 『永遠の僕たち』 | 『きみはペット』 |
| 『麒麟の翼〜劇場版・新参者〜』 | 『ジョニー・イングリッシュ 気休めの報酬』 |
| 『アニマル・キングダム』 | 『ロボジー』 |
| 『源氏物語 千年の謎』 | 『friends もののけ島のナキ』 |
| 『劇場版イナズマイレブンGO 究極の絆 グリフォン』 | 『デビルズ・ダブル -ある影武者の物語-』 |
| | 『ALWAYS 三丁目の夕日'64』 |
| | 『ミッション:インポッシブル/ゴースト・プロトコル』 |
| | 『DOCUMENTARY of AKB48 Show must go on 少女たちは傷つきながら、夢を見る』 |

■ 松竹系1月公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
新橋演舞場	『相生獅子』		○		
	『祇園祭礼信仰記 金閣寺』	○	○		
	『盲長屋梅加賀鳶 加賀鳶』	○	○	○	○
	『歌舞伎十八番の内 矢の根』	○	○		
	『連獅子』	○	○		
	『神明恵和合取組 め組の喧嘩』	○	○		
平成中村座	『義経千本桜 鳥居前』	○	○		
	『新古演劇十種の内 身替座禅』	○	○		
	『雪暮夜入谷畦道』	○	○	○	○
	『寿曾我対面』	○	○		
	『於染久松色読販』	○	○		
平成中村座 (試演会)	『寿曾我対面』	○			
	『おたのしみ座談会』				
ル テアトル銀座	『お年賀口上』			○	○
	『妹背山婦女庭訓 道行・御殿』	○			
浅草公会堂	『南総里見八犬伝』	○	○		
	『夕霧伊左衛門 廓文章 吉田屋』	○	○	○	○
	『通し狂言 敵討天下茶屋聚』	○	○		
三越劇場	『東京物語』	○		○	○
南座(京都)	『明治おばけ暦』	○			
	『前進座創立八十周年記念口上』			○	○
	『芝浜の革財布』				
松竹座(大阪)	『傾城反魂香 土佐将監閑居の場』	○			
	『修禅寺物語』	○			
	『積恋雪関扉』	○		○	○
	『通し狂言 雷神不動北山櫻』	○			

ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします

(新規登録資料案内 続き)

■ 他社公演資料 ■

あうるすぽっと	1 2 月	『嫉妬. 混む! (しっとどっとこむ)』プログラム
アサヒ・アートスクエア	1 2 月	『山の手事情社公演 道成寺・傾城反魂香』プログラム、台本
STスポット	1 2 月	『夏祭浪花鑑』プログラム
大阪新歌舞伎座	1 月	『新春公演 松平健主演』プログラム
紀伊國屋サザンシアター	1 2 月	『森は生きている [十二月物語]』プログラム
紀伊國屋ホール	1 2 月	『もしもキミが。』プログラム
国立劇場小劇場	1 2 月	『稀曲の会 隠れた名曲の魅力』プログラム
	1 月	『長唄の会 三曲の会』プログラム
国立劇場大劇場	1 月	『通し狂言 三人吉三巴白浪』『奴胤廓春風』プログラム、台本
座・高円寺1	1 2 月	『人情噺紺屋高尾』プログラム、台本
ザ・スズナリ	1 2 月	『オールド・バンチ男たちの挽歌 完結篇』プログラム
		『わたしのアイドル』プログラム
シアタークリエ	1 2 月	『musical GOLD カミーユとロダン』プログラム
	1 月	『I GOT Mermanアイ・ガット・マーマン』プログラム
シアターグリーンBIG TREE THEATER	1 月	『暗いところで待ち合わせ』プログラム
シアタートラム	1 2 月	『その妹』プログラム
自由劇場 (四季)	1 2 月	『王様の耳はロバの耳』プログラム
世田谷パブリックシアター	1 2 月	『欲望という名の電車』プログラム、台本
東京国際フォーラムホールC	1 2 月	『ミュージカル宮 (クン)』プログラム
中野テアトルBONBON	1 2 月	『あかはな』プログラム
俳優座劇場	1 2 月	『バッカスの聖夜』プログラム
		『女の平和』プログラム
博多座	1 2 月	『博多座文楽公演』プログラム
博品館劇場	1 2 月	『a b c ☆アナザーボーイズキャバレー 2 回裏!』プログラム
		『裏切りは僕の名前を知っている』プログラム
本多劇場	1 2 月	『アイドル、かくの如し』プログラム
三鷹市芸術文化センター星のホール	1 2 月	『探索』プログラム
三越劇場 (日本橋)	1 2 月	『ごんぎつね』『つるのおんがえし』プログラム
		『思案橋』プログラム、台本
明治座	1 月	『女たちの忠臣蔵』プログラム、台本

■ 書 籍 ■

『映画テレビ技術手帳 2010/2011年版』		日本映画テレビ技術協会
『鳥瞰図』	早船聡 (著)	新国立劇場運営財団
『MULTIPLY 嘘』		トーキョーマイメイツパワー
『役者に首ったけ! 芝居絵を楽しむツボ』		たばこと塩の博物館
『「元祖海水浴場・大磯」展 東京中のしゃれた奴らがやってきた!』		大磯町郷土資料館
『アマデウス』	ピーター・シェーファー (著)	劇書房
『ヴァニティーズ』	ジャック・ハイフナー (作)	劇書房
『ウェストサイドワルツ』	アーネスト・トンプソン (著)	劇書房
『エドマンド・キーン』	レイマンド・フィッツサイモンズ (著)	劇書房
『M. バタフライ』	デイヴィッド・ヘンリー・ウォン (著)	劇書房
『エレクトラ』	ソフォクレス (著)	劇書房
『オイディプス王』	ソフォクレス (著)	劇書房
『オレアナ』	デビッド・マメット (著)	劇書房
『オレステス』	エウリピデス (作)	れんが書房新社
『ガラスの動物園』	テネシー・ウィリアムズ (作)	劇書房
『蜘蛛女のキス』	マヌエル・プイグ (著)	劇書房
『劇人三島由紀夫』	堂本正樹 (著)	劇書房
『恐くて不思議な話が好き 白石加代子の百物語』		劇書房

(新規登録資料案内 続き)

■ 演劇雑誌 ■

『あぜくら』平成24年1月号

『文楽通信かわら版』10号

『舞踊芸術』2012年1月-2月号

『Confetti』2012年FEBRUARY Vol. 86、MARCH Vol. 87

『Confettiかわら本』2012年2月号Vol. 86

『伝統文化新聞』2012年(68号)、2012年新年号

『演劇ぶっく』2012年2月号

〔《特集》表紙のヒト 堤真一／『あゝ、荒野』松本潤 小出恵介 蜷川幸雄／ナイロン100℃『ノーアート・ノーライフ』大倉孝二 温水洋一／第三舞台『深呼吸する惑星』鴻上尚史／堂本光一〕

『演劇界』2012年2月号

〔《特集》二〇一一年 歌舞伎総まくり！／歌舞伎の基礎知識 屋号と家紋／小山三ひとり語り お咲の柱巻き／歌舞伎名作案内『網模様燈籠菊桐』 《インタビュー》市川左團次〕

『演劇界』2012年3月号

〔《特集》初芝居劇場国賑／追悼：十代目岩井半四郎／六代目片岡芦燕／小山三ひとり語り 九十歳の地獄宿／歌舞伎名作案内『生きている小平次』 《インタビュー》坂東彌十郎 坂東新悟〕

『げき』2012年1月10号

〔《特集》東日本大震災・原発事故と児童青少年演劇 《掲載戯曲》『ミュージカル はだしのゲン』鹿目由紀〕

『芸劇、変身中。』2012年WINTER 3号

『花道』32号〔《特集》出演者アンケート：市川亀治郎、片岡愛之助、市川男女蔵、中村亀鶴〕

『悲劇喜劇』2012年2月号〔《特集》唐十郎 《掲載戯曲》『西陽荘』唐十郎〕

『ひろば』2012年120号

『邦楽の友』平成24年2月号

『ほうおう』2012年3月号〔《インタビュー》中村勘九郎 《特集》鼎談 新派の今、そしてこれから〕

『ジョイン』2011 Nov. No. 73

〔《インタビュー》森新太郎 《特集》検証座談会「九州の演劇」の今／劇場という名の文明(28) 銀座博品館劇場〕

『喝采』2012年4月〔《特集》「菊次郎とさき」陣内孝則 室井滋インタビュー〕

『喝采』2012年4月特別号〔《特集》能と狂言の会〕

『喝采』2012年5月〔《特集》「ミュージカル ラ・マンチャの男」松本幸四郎インタビュー〕

『国立演芸場公演ガイド』平成24年2月号

『ミュージカル』2012年1月-2月号

〔《特集》『Endless SHOCK』／2012年の幕開きを彩る話題のミュージカル〕

『長唄』110号

『名古屋芸能文化』平成23年(21号)

〔《特集》中尊寺の「秀衡悪尉」面について 保田紹雲／寛鋌一文庫蔵「岡村保道能楽資料」一能楽資料から見る喜多流史一田崎未知／平成二十三年度御園座顔見世〕

『日本芸術文化振興会ニュース』平成24年1月号、2月号

『日本照明家協会雑誌』2012年1月号

〔《インタビュー》日本舞踊尾上流 尾上墨雪さん・尾上菊之丞さんに聞く 《特集》頑張ろうニッポン！！ vol. 4 「調光操作卓の共通データの現状 フロッピーディスクの製造中止を考える」(後編)〕

『日本舞踊』64巻1月号〔《特集》秘曲・新曲サロン 長唄 新松風／舞踊写真教室 長唄 萬歳(上)〕

『日本舞踊』64巻2月号

〔《特集》秘曲・新曲サロン 長唄 大内の花宴／舞踊写真教室 長唄 萬歳(下)／追悼 岩井半四郎〕

『大向う』平成24年1月号、2月号

『ラ・アルプ』2012年1月号

〔《特集》『ユタと不思議な仲間たち』が子どもたちの心に残したもの 東北特別招待公演から／『ライオンキング』東京公演13周年！！／ACTOR'S TIME 田邊真也〕

(新規登録資料案内 演劇雑誌 続き)

『ラ・アルプ』2012年2月号

[[特集]]『解ってたまるか!』加藤敬二、寸又峽を歩く! / 『オペラ座の怪人』日英怪人夢の競演 / 『マンマ・ミーア!』京都劇場開場10周年! / 『ウィキッド』魔法にかかった名古屋の街

『シアターガイド』2012年3月号

[[特集]]「ハムレット」井上芳雄 昆夏美 ヤネック・レデツキー 栗山民也 稽古場レポ / 「テヅカ Te Z u k A」シディ・ラルビ・シェルカウイ&森山未来 / 中村勘太郎改め六代目中村勘九郎襲名披露「二月大歌舞伎」

『匠の技 歌舞伎座をつくる』5号

[[特集]]フォト・ドキュメント 新築工事の基点、1階床を造る / 私と歌舞伎座 瀬戸内寂聴 / 編集長インタビュー 武中雅人×大沼信之 / 匠たちの証言 / 歌舞伎座建築学

『テアトロ』2011年12月臨時増刊号(856号)俳優・タレント養成ガイド2012年度版

『テアトロ』2012年2月号

[[特集]]3・11以後と日本演劇 《掲載戯曲》『オペラ金色夜叉』山元清多 / 『バス停』藤田傳 石川守哉

■ 映画雑誌 ■

『Cre Bizークリエイティブ産業におけるビジネス研究』2011年12月5号

[[特集]]映画祭のマーケティング 矢澤利弘 / 映画史3題 飯田裕康 / オタクの迷い道・中編世界11カ国調査の軌跡 薄葉彬貢 / アニメ・特撮作品の魅力の源泉アニメーション・特撮研究会活動報告 林政宏

『ドラマ』2012年2月号

[[掲載シナリオ]]『相棒season10』:『贖罪』興水泰弘 / 『挽歌』太田愛 / 『ラスト・ソング』戸田山雅司 《特集》「AKBラジオドラマ劇場」

『映画テレビ技術』2012年1月号

[[特集]]映画「幕末太陽傳」のデジタル修復 / 東京国際映画祭 / NHKアジア・フィルム・フェスティバル

『映画テレビ技術』2012年2月号

[[特集]]映画『はやぶさ 遙かなる帰還』撮影監督阪本善尚氏に聞く / 台湾映画『あの頃、君を追いかけた』九把刀監督に聞く / 立体映像新時代~アジアの立体映画 / 第12回東京フィルメックス

『映画時報』2012年1月号

[[特集]]2012年邦画3社社長の年頭挨拶 ★松竹・迫本淳一社長★東宝・島谷能成社長★東映・岡田裕介社長 / 2012年東宝LINE-UP 《インタビュー》市川南取締役映画調整部長

『衛星劇場プログラムガイド』2012年2月号

『キネマ旬報』2011年臨時増刊2月21日号KINEJUN next Vol. 1

[[特集]]「あしたのジョー」 / ボクシング映画の魅力 / 映画×漫画 最新漫画原作映画作品徹底ガイド

『キネマ旬報』2011年増刊3月25日号KINEJUN next Vol. 2

[[特集]]「SP 革命篇」 / 「漫才ギャング」 / 本格アクション映画の系譜 / 芸人×映画 / 沖縄映画祭

『キネマ旬報』2011年増刊6月10日号KINEJUN next Vol. 3

[[特集]]「パラダイス・キス」北川景子 向井理 / ボーイズ・ムービー・アンビシャス!!!

『キネマ旬報』2011年増刊9月22日号KINEJUN next Vol. 4

[[特集]]「僕たちは世界を変えることができない。But, we wanna build a school in Cambodia.」 / 「モテキ」

『キネマ旬報』2012年1月下旬号

[[特集]]FBI長官フーヴァー、おまえは誰だ! イーストウッド最新作「J・エドガー」 / 相葉雅紀

『キネマ旬報』2012年2月上旬特別号

[[特集]]吉岡秀隆2012 / 「ALWAYS 三丁目の夕日'64」 / 「はやぶさ 遙かなる帰還」

『キネマ旬報』2012年2月下旬決算特別号

[[特集]]2011年第85回キネマ旬報ベスト・テン&個人賞発表 2011年の映画と映画界大総括!

『NFCカレンダー』2012年2月-3月号

『日経エンタテインメント!』2012年2月号

[[特集]]2012年絶対見たい映画100 / 2012年ヒット完全予測 / ドラマ人気復活は本物? / 阿部寛×新垣結衣 / 吉高由里子

(新規登録資料案内 映画雑誌 続き)

『ロケーションジャパン』2012年2月号

[[特集] 松山ケンイチ/女は時代の羅針盤 第2回ロケーションジャパン大賞/今年はロケ地で恋を叶える!/長澤まさみ/伊勢谷友介]

『SCREEN』2012年3月号

[[特集] 第57回映画評論家選出2011年外国映画ベスト10&ベスト男女優発表!!/2012年春NEWSな男たち女たち/アカデミー賞を狙う有力作&スター大予想!]

『シナリオ』2012年2月号

[[掲載シナリオ] 『ロボジー』 矢口史靖/函館港イルミナシオン映画祭2011第15回シナリオ大賞受賞作発表 函館市長賞(グランプリ) 『あんぽんたんとイカレポンチキ』 山崎佐保子、『リアルファミリー』 園田新]

『シナリオ』2012年3月号

[[掲載シナリオ] 『キツツキと雨』 沖田修一 守屋文雄/ 『アフロ田中』 西田征史]

『シナリオ教室』2012年2月号

[[掲載シナリオ] 第23回「フジテレビヤングシナリオ大賞」受賞作: 佳作『うなぎを拾ったら』 寺田大作、佳作『欠陥住宅』 岡田道尚]

『松竹(社報)』2012年(167号)

『友 Iwanami Hall』2012年冬号No. 372

[[特集] 「花はどこへいった」から「沈黙の春を生きて」まで 坂田雅子/岩波ホール創立44周年を迎えて 高野悦子・岩波律子/エキブ・ド・シネマ2012年ラインアップ/第24回東京国際女性映画祭]

専門図書館協議会関東地区協議会「日比谷図書文化館」見学会

日時: 2012年2月1日(水) 14:00~15:30

参加者: 井川繭子



日比谷公園内にある千代田区立日比谷図書文化館は、旧都立日比谷図書館から移管された資料を中心とした図書館と、ふたつのミュージアムや日比谷カレッジ、特別研究室、ホール・会議室等を備えた文化施設として、2011年11月にリニューアルオープンした。今話題の図書館なので、今回の見学会は希望者多数につき追加開催されるほど人気が高く、知名度と関心の高さがうかがえた。

見学会は、まず4階の小ホール(スタジオプラス)で全体の説明を聞いた後、上階から順に館内各階の見学に移り、最後にまた小ホールに戻って質疑応答となった。

4階の特別研究室は、旧千代田区立図書館の閉架書庫にあった資料を開架にしたもので、近代の対外交渉史の資料である内田嘉吉文庫(一般の蔵書検索とは別の「内田嘉吉文庫稀観書集覧検索システム」で検索可能)をはじめとして、旧一橋図書館所蔵本、明治期以前に発行された和装本や江戸東京の地域資料など約2万冊の資料が収められている。書架は旧日比谷図書館の前身である東京市立図書館時代の分類によっており、並べ方も迷路のように配置されていて、本棚を眺めながら手にとってみる楽しさを味わえる。書棚には実際に本を開いて中を見せ解説を付けたものも置かれていて、この展示は2ヶ月毎に入れ替えているそうだ。奥には特別研究席が設けられ、こちらの利用は有料である。

2階と3階は一般の図書フロアと閲覧スペース、貸出などを行う総合カウンターで構成されている。各階2000㎡のスペースが以下の4つのゾーンに分かれている。

○オレンジ・ゾーン…ビジネス・キャリアデザイン(政治・経済・社会・産業・商業など)

○パープル・ゾーン…新聞、雑誌、まちづくり(観光・行政・建築など)

○ブルー・ゾーン…アート・文学・カルチャー(芸術・文学・歴史・民族など)

○グリーン・ゾーン…科学技術・ライフスタイル(自然科学・工業・哲学・宗教・健康・ファッションなど)

書架は図書館全体で15万冊分のスペースがあり、現在は約10万冊が納められている。スペースには余裕があるようで、空いている書架を使って蔵書に興味を持ってもらえるように、工夫をこらした展示がされていた。



< 4階 特別研究室の書庫 >



< 2階図書フロア展示「寄席に行こう！」 >

閲覧席は館内全体で284席、すべての箇所が無線LANが利用できる（一部では有線のサービスもある）。旧日比谷図書館の建物はそのままに館内を改装したので（現在の建築基準法では、同じ場所に建て直すことは不可能なのだそうだ）、思うように配置などできない等の不便があるそうだが、三角形の外観を生かした閲覧席の窓など、かえてそれが魅力となっているように感じた。館内には日比谷図書館の歴史を展示するコーナーもあり、区立図書館としての機能は果たしつつも、この日比谷図書館の歴史を大切に伝えていきたいという姿勢を感じた。

1階には旧千代田区立四番町歴史民俗資料館を受け継いで、千代田の歴史を学べる常設展示室と企画展を行う特別展示室のふたつのミュージアムが入っている。見学したときは、『文化都市千代田 江戸の中心から東京の中心へ』という企画展が開催中だった。

その他の施設としては、地下1階に舞台の付いた207席の大ホール（日比谷コンベンションホール）があり、4階の小ホールや会議室なども利用して、日比谷カレッジという名称でさまざまな講演会や催し物が開かれている。1階と地下1階にカフェ・売店とレストランもあり、館内の図書は持ち込んで読むこともできる。

以上の業務は、千代田区の導入している指定管理者制度により、日比谷ルネッサンスグループ（5社共同：株式会社小学館集英社プロダクション、大日本印刷株式会社、株式会社シェアード・ビジョン、大星ビル管理株式会社、株式会社図書館流通センター（TRC））が管理運営を行っている。スタッフは全体で約80名、図書館部門は主にTRCが担当しており、千代田区の職員は、文化財担当の3名のみとなっている。

名称が表すように、区立図書館としての機能に加えて、千代田区の歴史を保存・紹介する機能や、千代田区の文化発信地点としての機能、さらには霞ヶ関官公庁が近い図書館としてのビジネス支援機能などを持つ、複合文化施設として生まれ変わった図書館であるといえる。特にビジネス支援機能については、これからさらに充実させるべく取り組んでいきたいとのことだった。

運営に民間の力が加わっているからか、図書館の部分についても、ただ資料を充実させて来館者を待つというのではなく、いかに興味をもって親しんでもらえるかを考えて、本の展示を工夫したり、ワークショップ形式の講座を開催したりして、積極的にサービスを提供していこうとする姿勢が強く感じられた。こうした活動は、これからの公共図書館のひとつのあり方なのかもしれないと思った。

千代田区在住・在勤・在学に関係なく誰でも利用登録ができるし、平日は午後10時まで開館（図書フロアのみ）しているので、ぜひ一度立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

（文中の写真はすべてHPより拝借いたしました）



● 所蔵資料展示案内 ●

第19回「中村勘九郎」関連資料

展示期間：2012年1月27日～3月9日



於：松竹大谷図書館閲覧室

2月の所蔵資料展示は、新橋演舞場2月公演の六代目中村勘九郎襲名披露を記念し、新勘九郎とその父・五代目勘九郎(現十八代目中村勘三郎)に関連した資料を展示しております。

中村勘九郎という名前は、寛永元年[1624]に江戸最初の劇場を立てた初代中村勘三郎の長男に始まる由緒ある名跡です。初代勘九郎(生没年不詳)は、父が建てた中村座の座元として、中村座の経営の基盤を築きました。その二男が二代目勘九郎(元禄元年[1688]～宝暦7年[1757])です。はじめは役者として修行を積んでいましたが、元禄14年[1701]に六代目勘三郎を継ぎ、2～3年顔見世に出演した後は、口上のため舞台に上がるほかは座元の職に専念しました。約五十年間勤めあげた後、寛政3年[1750]に座元を隠居し、二代目勘九郎を名乗りました。三代目勘九郎(寛政12年[1800]～嘉永4年[1851])は十一代目勘三郎の二男で、はじめ四代目中村明石、次いで五代目中村伝九郎を名乗り、役者として舞台に立っていましたが、父十一代目勘三郎の逝去に伴い、天保元年[1830]十二代目勘三郎を襲名し座元となりました。約20年間務めた後、嘉永3年[1850]に隠居し、三代目勘九郎を名乗りました。四代目勘九郎については、残念ながら生没年、経歴ともに分かっていません。



五代目勘九郎(昭和30年[1955]～)は昭和34年[1959]『昔噺桃太郎』の桃太郎で初舞台を踏みしました。父・十七代目勘三郎をはじめ、八代目松本幸四郎(=初代松本白鸚)、六代目中村歌右衛門ら大幹部が門出を祝って出演しました。五代目勘九郎としての締め括りの舞台は、平成16年[2004]『苦勞納御礼 今昔桃太郎』で、49歳の中年桃太郎を演じ、46年間慣れ親しんだ名前に別れを告げ、翌17年に十八代目勘三郎を襲名しました。

六代目勘九郎(昭和56年[1981]～)は、昭和61年[1986]、本名の波野雅行で初御目見得、翌62年[1987]に、二代目勘太郎を名乗り、弟二代目中村七之助と共に『門出二人桃太郎』で初舞台の披露をしました。平成2年[1990]8月には8歳で『供奴』を踊り、4ヶ月後の12月に再びリクエスト上演がなされるという人気振りでした。

江戸時代、勘九郎という名跡は、中村座の座元、あるいは座元の隠居名でしたが、明治、大正と、しばらく名跡が絶えた後、昭和になって、五代目勘九郎の活躍により華々しい役者の名跡として復活を遂げます。この後も新六代目勘九郎によって、ますます魅力的に発展していく名跡といえるでしょう。

■「中村勘九郎」関連資料展示一覧■

1. 『苦勞納御礼 今昔桃太郎』演劇スチール(平成16年[2004]12月歌舞伎座)
桃太郎(五代目中村勘九郎=十八代目中村勘三郎)
2. 『門出二人桃太郎』演劇スチール(昭和62年[1987]1月歌舞伎座)
弟の桃太郎(二代目中村七之助)、鬼の総大将(五代目中村勘九郎=十八代目中村勘三郎)、
兄の桃太郎(二代目中村勘太郎=六代目中村勘九郎)
3. 『供奴』演劇スチール(平成2年[1990]12月歌舞伎座)
奴波平(二代目中村勘太郎=六代目中村勘九郎)
4. 『春興鏡獅子』演劇スチール(平成12年[2000]4月歌舞伎座)
小姓弥生(二代目中村勘太郎=六代目中村勘九郎)
5. 『仮名手本忠臣蔵 六段目』演劇スチール(平成18年[2006]1月浅草公会堂)
女房おかる(二代目中村七之助)、早野勘平(二代目中村勘太郎=六代目中村勘九郎)
6. 『高坏』演劇スチール(平成23年[2011]5月明治座)
次郎冠者(二代目中村勘太郎=六代目中村勘九郎)
7. 『怪談乳房榎 角管十二社大滝の場』演劇スチール(平成23年[2011]8月新橋演舞場)
うわばみ三次(二代目中村勘太郎=六代目中村勘九郎)
8. 『劇評』昭和34年5月号
表紙:『昔噺桃太郎』昭和34年[1959]4月歌舞伎座
桃太郎(五代目中村勘九郎=十八代目中村勘三郎)
9. 浅草公会堂プログラム 平成22年[2010]1月
写真:『奥州安達原 袖萩祭文』安倍貞任(二代目中村勘太郎=六代目中村勘九郎)
10. 『ターン』プログラム(2001年公開、平山秀幸監督作品)
泉洋平(二代目中村勘太郎=六代目中村勘九郎)
11. 『禅 ZEN』プログラム(2009年公開、高橋伴明監督作品)
道元(二代目中村勘太郎=六代目中村勘九郎)
12. 『中村勘太郎(写真集)』朝日新聞社、2003年
13. 『歌舞伎の名セリフ 粋で鯉背なニッポン語』中村勘太郎著、光文社、2002年